

第6回(平成21年度)協会活動有功賞受賞者

協会活動有功賞は、当協会の運営、事業などの活動で顕著な貢献のあった者を表彰することにより、会員の協会活動に対する参加意欲の増大を促すとともに、協会活動のさらなる発展を図ることを目的として創設されたものです。

いながき じゅんいち
稲垣 順一 氏 (三重県工業研究所窯業研究室)

協会情報の発信環境構築と出版書籍の電子化手法確立への貢献



稲垣氏はパソコン通信からインターネットへと情報発信媒体が移行しつつあった平成6年に行事企画委員に就任し、データベース小委員会に所属して協会独自のパソコン通信による情報発信と、協会内への専用インターネット回線開設に寄与した。協会情報一元化とホームページ作成を目的として情報化小委員会が発足した際も行事企画委員側メンバとして参加し、コンテンツ構成などの面で現在の礎を築いた。

平成11年より出版委員に就任し、共同執筆したセラミックス誌「セラミストのためのパソコン講座」を、パソコンで実習しながら学べるCD版として初めて電子出版した。教育向け書籍「DVDセラミックス入門ビデオ編」では、実験装置の準備、撮影、編集や音声付加、プレス原盤の作成など一連の出版手順を確立した。さらに絶版書籍「セラミック外論全4巻」等を電子化して、会員向けサービスとしてホームページ上で公開した。稲垣氏のこれまでの取り組みは、今後の電子出版作業の標準につながる重要なノウハウとなっている。

以上のように、協会情報の発信環境構築と出版物の電子化手法に対する稲垣氏の貢献は非常に大きく、協会活動有功賞受賞候補者として推薦する。

略歴 昭和56年3月名古屋工業大学無機材料工学科卒業。同4月三重県窯業試験場技師。平成11~12年(財)ファインセラミックスセンター客員研究員(併任)。同19年3月千葉大学大学院自然科学研究科修了(博士(工学))。協会行事企画委員会主査、出版委員会副委員長、委員長を歴任。

おぬま まさのぶ
小沼 雅敬 氏 (東芝ナノアナリシス(株)化学分析技術センター)

ファインセラミックス用原料の化学分析方法規格作成及び協会標準物質作製



小沼雅敬氏は平成4年(株)東芝に入社以来、電子セラミックス材料、ファインセラミックス材料、半導体材料、電池材料等の化学分析技術の開発に従事し、同社ならびに東芝ナノアナリシス(株)の分析技術の向上に貢献してきた。その豊富な経験・知識をもとに、日本セラミックス協会では、セラミックスの化学分析方法の普及と標準化に多大な貢献を行ってきており、協会規格として、タルク、ジルコニア微粉末、窒化ホウ素微粉末の化学分析方法規格作成に多大な貢献をし、さらに、アルミナ微粉末、炭化ケイ素微粉末などの環境影響成分の化学分析方法規格作成に尽力し、協会認証標準物質作製にも寄与した。協会が原案作成協力者としてとりまとめた各種セラミックス原料の化学分析法のJIS改正原案作成(R1616およびR1603)にも委員として参加して寄与した。また、資源・環境関連材料部会無任所幹事として、現在協会認証アルミナ微粉末標準物質の作製に寄与するとともに、部会主催の講演会や研究発表会において企画運営に尽力し、化学分析技術の普及向上に努めた。

これら同氏の積年にわたる高いレベルの諸活動は協会に対する多大な貢献であると認められ、顕彰すべきものとして協会活動有功賞に推薦する。

略歴 平成4年東芝総合研究所(株)入社。電子セラミックス材料、ファインセラミックス材料、半導体材料、二次電池材料の化学分析技術の開発に従事。平成15年より東芝ナノアナリシス(株)化学分析技術センター勤務。現在に至る。

みぞた やすお
溝田 恭夫 氏 (岡山セラミックス技術振興財団)

長年に亘る支部事務局並びに特色ある行事の円滑な運営と推進



氏は昭和53年から中国四国支部の事業ならびに事務処理を一手に担い、支部の特徴的な行事となっている「ヤングセラミストミーティング(平成6年~現在)」や「産・官・学研究マッチング(同18~20年)」耐火物技術協会中国四国支部との共催で行っていた「耐火物技術講習会(昭和56~58年,同62~平成元年,同5~9年)」などの原案作成や新規企画の立案、事務処理などに携わり、すべての事業を盛会かつ効率的に運営してきた。さらに、本部総会・年会(第53,60回)、秋季シンポジウム(第5回)が管内で開催された際には、支部事務局として積極的に本部に協力して円滑な遂行に貢献した。

一方、岡山セラミックス技術振興財団が発刊した「アルミナ系耐火物」や「TAIKABUTSU入門書第1,2版」の編集や「セラミックス岡山(財団機関誌)」への投稿を積極的に行い、セラミックス産業、特に高温構造用セラミックス(耐火物)の発展に貢献してきている。

さらに、発明関係では、サイアロンやカルシアに関する特許5件の発明者として、また、岡山セラミックス技術振興財団が依頼したすべての特許事務に携わり、迅速な出願事務を恙なく実行してきている。

特筆すべきは、平成12年度から精力的に取り組んでいる世界で唯一の「耐火材料の物性データベースの構築」があげられる。それまで、経験の積み重ねにより材料取り扱い技術を蓄積してきた耐火物業界に対して、材料毎の物性や使用用途、高温特性にかかわる実測値をデータベース化し、材料設計や新製品開発に役立つ情報として提供してきた結果、アクセス数は、累計1万3千件に及んでおり、耐火れんが119材質、

不定形耐火物 51 材質, 断熱れんが 12 材質, 断熱ボード 6 材質, 合計 188 材質についてデータ構築を完了している。

以上のとおり氏のこれまでの協会活動に関する功績は, 協会活動有功賞に十分値するものとして推薦する。

略 歴 昭和 53 年 4 月耐火物協会中国四国支部書記, 平成 2 年 3 月同退職, 同年 4 月岡山セラミックス技術振興財団主事, 同 7 年 4 月同主任, 同 12 年 4 月同主査, 同 16 年 4 月同総務企画課長, 現在に至る。

国際交流奨励賞受賞者 21 世紀記念個人冠賞

国際交流奨励賞は若手研究員の国際交流を奨励する目的としており, アジア地区との国際交流を促進し, セラミックスの科学・技術の発展を図ることを目的とする「21 世紀記念個人冠賞」, セラミックスの科学・技術分野における中国と日本の交流促進を目的とする「日中セラミックス科学・技術交流奨励賞」があり, 寄付者の意向を反映して創設されたものです。

倉田元治賞

Junjie Zhang
张军杰 氏 (中国科学院上海光学精密機械研究所 教授)



Dr. Junjie Zhang is one of the most active and energetic young researchers in China. In recent years, Dr. Zhang has exhibited a good capacity for hard work and wholehearted devotion to his scientific research work. To be a research group leader, he and his colleagues are devoting themselves to laser glass and glass fibers.

Dr. Zhang ever worked in Kobe University (Japan) as a postdoc researcher from August 2000 to April 2002. During this period, his research work was mainly focused on the optical functional transparent glass ceramics. He ever attended the Annual Meeting of The Ceramic Society of Japan in 2001 and made an oral presentation.

Dr. Zhang is the coordinator of several national projects and the author of more than 30 scientific papers. He also has received 7 Chinese issued patents. In 2005, he was awarded the Science and Technology for Youth by the Shanghai Science and Technology Committee. In 2007, he was awarded the Seventh Science and Technology Award for Youth by the Chinese Ceramic Society.

In addition, Dr. Junjie Zhang is the secretary-general of the special glass committee of Chinese Ceramic Society. To be one of the organizers, he has successfully held Chinese Special Glasses Conference three times in 2005, 2007 and 2008, respectively. I was impressed by his real spirit of academic devotion, his ability to express himself clearly and to think independently and creatively. In consideration of his character and personality, according to my observation, he is also a courteous, responsible and cooperative young man.

Based on above reasons, I would like to recommend Dr. Junjie Zhang for the application of the Kurata Award by The Ceramic Society of Japan.

略 歴 Bachelor Degree, major in Silicate Engineering, Qiqihaer University, P. R. China. (1990-1994), Master Degree, majoring in optical materials, Changchun Institute of Optics and Fine Mechanics, Chinese Academy of Science, P. R. China. (1994-1997), Ph.D Degree, major in materials, Shanghai Institute of Optics and Fine Mechanics, Chinese Academy of Science, P. R. China. (1997-2000), PostDoc Research Fellow, Kobe University, Japan. (2000.8-2002.4), Associate professor, South China University of Technology, P. R. China. (2002.4-2003.4), Associate professor, Shanghai Institute of Optics and Fine Mechanics, Chinese Academy of Science, P. R. China. (2003.4-2007.10), Professor, Shanghai Institute of Optics and Fine Mechanics, Chinese Academy of Science, P. R. China. (2007.10-present).

井関孝善賞

くすのせ たかふみ
楠瀬 尚史 氏 (香川大学工学部材料創造工学科 准教授)



楠瀬尚史氏は, 構造用セラミックスに六方晶窒化ホウ素をナノサイズで分散させる新しい化学プロセスおよび還元焼結プロセスを開発し, 以下の成果を得ている。

・優れた室温および高温力学特性, 耐熱衝撃特性に加え, 金属のような微細加工性を持つ $\text{Si}_3\text{N}_4/\text{BN}$, SiC/BN , AlN/BN , $\text{Al}_2\text{O}_3/\text{BN}$ ナノコンポジットの創製に成功した。

・優れた力学的特性, 耐熱衝撃特性, 金属のような機械加工性に加え, 高熱伝導性を有する AlN/BN ナノコンポジットの創製に成功した。

・上記の各種の機能調和現象が発現するメカニズムの解明に成功した。

また同氏は, AlN および SiC の結晶粒界の化学組成と構造を高度にナノレベルまで制御する手法を確立し, 以下の成果を得ている。

・優れた熱伝導性を損なうことなく絶縁体である AlN セラミックスに電気伝導性を付与する事に成功した。

・優れた機械的特性を損なうことなく SiC セラミックスの電気伝導度を制御することに成功した。

このように楠瀬尚史氏は, 構造用セラミックスの高次機能化に関して, 基礎プロセスの開発, 新規材料の創製, 機能発現メカニズムの解明に関する一連の研究を行い, 優れた複数の機能が共生する高次機能調和型窒化物セラミックスの創製に世界で初めて成功し, セラミックスの